

## 【 概 要 】

平成21年度 民間住宅ローン利用者の実態調査  
【民間住宅ローン利用者編】（第2回）

## 1. 調査の概要

調査対象期間(平成21年7月～平成21年10月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(11/11～11/15)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1,202件。

## 2. 調査結果の主なポイント

## (1) 「変動型」利用割合は50.5%に高まる

- ・「変動型」の利用割合は、平成21年8月に54.8%と18年4月の調査開始以来最も高い割合となった。今回の調査対象期間(平成21年7月から10月)を通しての利用割合は50.5%(前回調査:42.9%)に増加している。  
「固定期間選択型」は、平成21年9月に28.1%と調査開始以来最も低い割合となった。今回の調査対象期間を通しての利用割合は30.7%(前回調査:35.0%)に減少している。  
「全期間固定型」は、今回の調査対象期間を通しての利用割合は18.8%(前回調査:22.1%)に減少している。 <p2>
- ・全利用者の76.8%を占める「30歳代」「40歳代」の「変動型」利用割合は、5割を超えている(前回調査:4割台)。 <p4>
- ・全利用者の35.4%を占める世帯年収「400万円超～600万円以下」の年収層では、「変動型」は5割(前回調査:4割)に増加。 <p5>
- ・今後の金利見直しについて、「変動型」「固定期間選択型」の利用者は「現状よりも上昇する」が前回調査より減少。「全期間固定型」利用者では「現状よりも上昇する」が前回調査より増加。 <p6>

企業収益は減少が続いており、雇用情勢は依然として厳しく、緩やかなデフレ状況にある現状においては、家計の節約志向はますます強まっており、当面の返済額の少なさを重視して、金利の低い「変動型」を選択しているものと考えられる。

※ 一般に「変動型」商品の適用金利は、半年毎に見直され、5年毎の返済額見直しに際して一定の措置があるのが一般的ですが、金利上昇が大きい場合、未払利息発生により、将来の支払いに課題を残す可能性があるため、「変動型」利用に当たっては十分な注意が必要です。

## (2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が72.0%と圧倒的に多い。次いで、「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」が29.2%と多く、前回調査と比べやや高くなっている。 <p13>